嵯峨宮頼り

第 32 号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

http://www17.plala.or.jp/sagagu/

発行日：2023 年 11 月 10 日

発　行　：嵯峨宮世話人会

嵯峨宮 第六回 埋蔵祈願式 十二月十七日(日) 十一時

今年の武者行列は小平の里から出発します。埋蔵祈願式での祈願を希望される方は祈願書に願文を記載の上、祈願料と共に封筒に入れ神社お賽銭口へ投入して下さい。祈願書は神社にも備え付けてあります。

祈願料　千円

受付締切　十二月十五日

「嵯峨宮頼り」は嵯峨宮を通じての情報を地域の皆様に提供しています。バックナンバーは首記ＵＲＬのホームページから見られます。神社境内の掲示板でも見られます。御相談は世話人会迄連絡下さい。

新世話役

茂木・狸原　**星野敬一**さん

九月十七日の世話人会において、茂木・狸原地区担当世話役の赤石恒男さんが体調不良のため退任し、**星野敬一**さんが新世話役に就任して頂くことが承認されました。赤石さんには二十六年の長きに亘り嵯峨宮世話役としてご尽力頂きました。感謝申し上げると共に、体調を取り戻し再び活躍されることを期待致します。お疲れ様でした。

秋季大祭（十月十四・五日）久々に賑やかだった

新型コロナで自粛三年、今年は社殿を開放し飲食もＯＫ、久々に参加してくれた方々の顔が笑顔で一杯だった。ツマミの菓子に持ち寄られた御赤飯、キンピラ、漬物等で「まあ一杯」「いや車だから」と言いつつ腰を下ろして「じゃウーロン茶で」。

今年は**ミニギャラリー**と称し、ここ六、七年間の嵯峨宮関連記念写真を社殿内展示した。たった五回の埋蔵祈願の衣装も一回目は着物一着、二回目は二着、三回目はコロナでなし、四回目で七人揃ったが皆マスク姿。五回目でやっと本来の姿になった。懐かしき人や知人を見つけ思い出を話してくれた。苦労話や抱負を語る人もいた。時計の針を一瞬戻して、忙しさに埋れている自分に過去の自分を振り返させてくれる、と。

昨年の埋蔵祈願で賽銭泥棒に入られ祈願書を盗まれて御迷惑をかけた前橋の方々が、栗・マイタケ入りのお赤飯と里芋の煮物を重箱に携え駆け付けてくれた。うれしかった。あの後お詫びに嵯峨宮頼りをずっと郵送させて頂いた。それを読んで来てくれたと言う。嵯峨宮のおかげで又優しい人に会えた。

夜も更け客も減り顔なじみばかりになると瓶も空いてくる。気も若くなって「私の健康法」を披露するがヨガまがいの身体のヒネリにハラハラする。マムシが好い、マカが効く、あれは心臓の悪い人はダメだ、と先輩顔する。四年ぶりの祭に疫病の怖さを始めて体験した戦後生れの老人が、ウクライナやガザの紛争を横目に平和を謳歌したひと時だった。

今年も 幣束 取扱います

嵯峨宮では今年も幣束を取扱います。ご希望の方は、世話人が大麻頒布の注文に伺うときお申し込み下さい。

価格１８０円

幣束

・秋を楽しむ－お月見－

家の周りのケヤキの葉もモミジも黄色くならずに茶色くなって落ちた。異常気象のせいか今年の秋は紅葉が少ない。木が葉から養分を抜くのが上手くいかなかったようだ。

お月様はきれいだった。

十三夜 10 月 27 日(金)
満月に少し欠ける月

・秋を楽しむ －読書－

パレスチナ自治区ガザで大規模な戦闘が行われている。イスラム組織ハマスによる十月七日のイスラエル奇襲から一ヶ月が経ち、既に双方で一万人以上の人命が失われた。何千年も前から何度も繰り返されるこの地の果てしなき対立、日本人には理解し難いし、この地に生まれなくてよかったとつくづく思わざるを得ない。

二十年余前「**小説聖書（旧約篇）**」なる本を見つけた。以前聖書を読もうとして言葉のギャップに辟易し断念した記憶があり、平易な言葉で書かれたこの本は容易に読めた。内容は宗教書というよりはパレスチナの地の歴史書であった。そして島国で八百万の神と多神教を受け入れる日本人としては一神教の人々の考え方と余りにも大きな違いがあり、その根深さと近寄り難さを感じた。聖書はその全てを読むには骨が折れると聞いていたが、この本は読み易かった。邪道と言う人もあろうが、漫画の歴史本もある時代、知らないよりは知っておいた方が好いだろうと思い推薦する。只文字が小さく老眼にはきつい。

小説聖書（旧約篇）
（The Book of God.）
ウォルタ・ワングリン著
仲村明子訳
1,998 年　徳間書店発行

・秋を楽しむ－味覚－

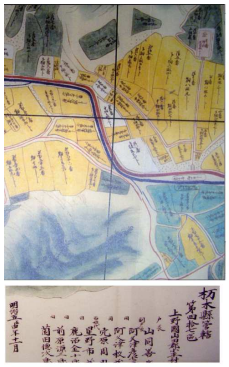
暑く長い夏は**野菜**農家に出来過ぎや種蒔のやり直しをさせるなど苦労かけている。それが値上がりとなって消費者も一時一本三百円の大根を買う羽目となった。**天然のキノコ**も今年は全くダメだという声ばかりだった。

それでも今年の**栗**は面白かった。例年より十日も遅れた早生（わせ）は実が入り過ぎて皮が裂けた。売り物にはならないが、素手で簡単に向け中身も大きく、料理する人には喜ばれた。晩生（おくて）の品種も実が入り過ぎたが、じっくり育ったから皮の裂けも早生程はなく通常より一回りも二回りも大きく、味もホクホクの好い物だった。

自然相手は意のようにならない、なるようになるさ、ケセラセラ♪　と。

・秋を楽しむ－花炭焼（はなずみ）－

大間々林業研究会も新型コロナで自粛三年、そろそろ何かやろう、簡単に出来て結果が面白い花炭を焼こう、と。炭焼きプロは三年前に亡くなり素人ばかりだが失敗経験が大事と、十月二十二日稲刈したばかりの田圃で半切りドラム缶に火を起こす。菓子缶に松ぼっくりや栗のイガ、竹、椿の実、南天、松葉、バラの木等やりたいモノは何でも入れる。中央に穴をあけた蓋を閉じて針金で縛り、四十分位火にかける。煙が透明になったら穴を塞ぎ火から降ろして冷ます。蓋を開けると「オー」の歓声。松ぼっくり、イガは好いねぇ、葉は少し灰気味だ、竹は生だ、時間が足りない、いや分けた方が良いと改良案が出る。傑作を各自持ち帰り、まだ暑い秋の日がな花炭焼きを楽しんだ。

文書館を頼る

地域に係り始めると昔の地域情報が欲しくなる。特に古地図の番地は今も同じで、境界や面積、道路、河川、屋敷地等細く記載され、公図に無い情報や境界問題で参照することはよくある。しかし古地図が地域に残っていることは稀だ。**県立文書館**には江戸時代の古文書や地図、明治以降の公文書が保管され閲覧することが出来る。地域にある小平古地図も谷ツ田から上田迄の人家の多い所が欠けている。それを文書館で探し見つけることが出来た。明治五壬申年に作成され馬入れ迄記載されていた。これで一歩踏み出せる。（阿直）